

経営比較分析表

岡山県 真庭市

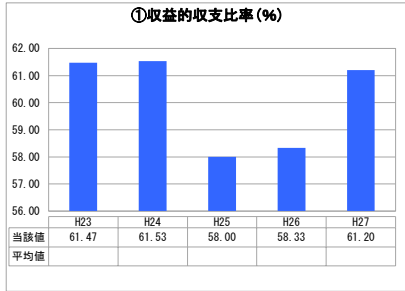
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	11.82	78.15	3,110

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
47,820	828.53	57.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,611	3.18	1,764.47

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



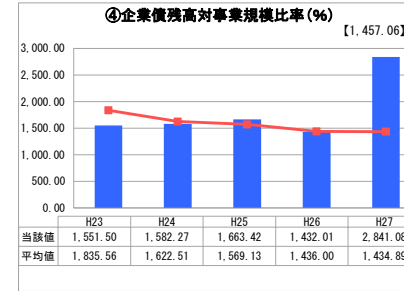
「単年度の収支」



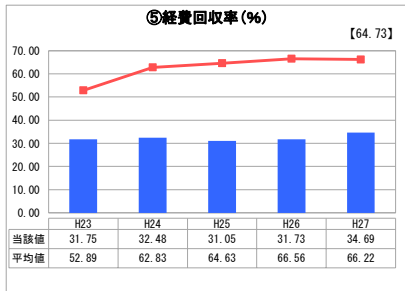
「累積欠損」



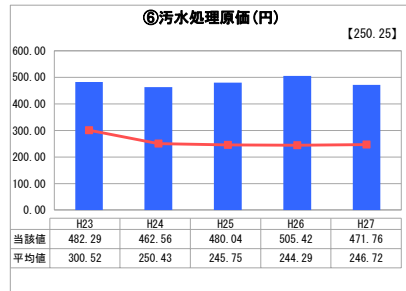
「支払能力」



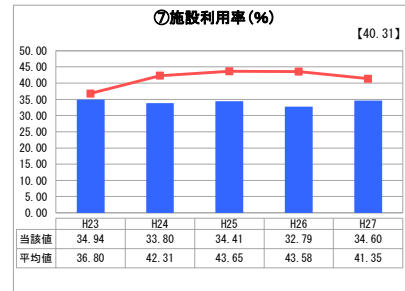
「債務残高」



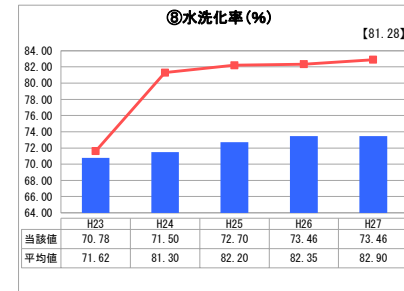
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

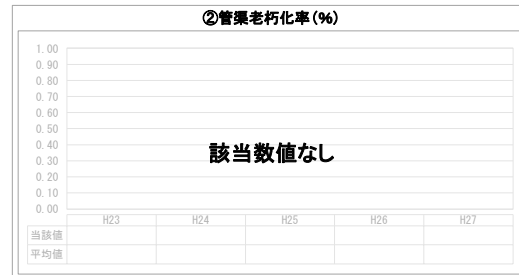


「使用料対象の捕捉」

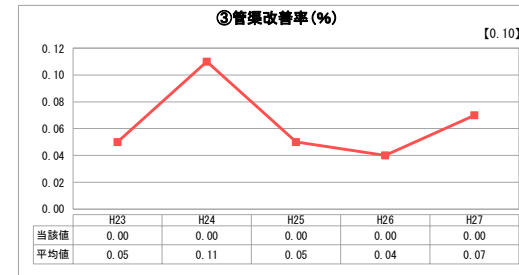
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率
H24年度からの低下は長寿命化工事による地方債償還金の増加によるものであったが、過疎債の償還が完了するものもあり、H27年度で61.20%となっており、前年度より2.87%向上している。
- ④企業債残高対事業規模比率
中山間地域の地理的な要因などにより整備費が割高となっている。人口減少などにより料金収入の増加も見込めないため平均値を上回っている。
- ⑤経費回収率
H27年度で34.69%となっており、前年度より2.96%向上しているが、小規模な処理施設4箇所で運転を行っているため、類似団体と比べ低くなっている。
- ⑥汚水処理原価
人口減少などにより有収水量が低下しているため、処理原価が増加傾向である。H27年度で471.76円となっており、類似団と比べ225.04円割高となっている。
- ⑦施設利用率
H27年度で34.6%となっているが、処理区域内に大規模な観光施設があり、処理水量の変動が大きいため利用率が低くなっている。
- ⑧水洗化率
処理区域内の整備は完了しているが、H27年度で73.46%となっており、類似団体と比べ低くなっている。今後も引き続き水洗化率の向上を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

供用開始から10年以上経過しており、今後は耐用年数に近づく設備があるため、長寿命化計画を策定し、部品交換等整備の延命化と処理機能を確保するとともに費用の縮減を図る。

全体総括

処理区域内の整備は完了しているが、水洗化率は類似団体に比べ低い状況であるため、水洗化率の向上を図り経営の安定化を図るとともに、今後の人口減少を踏まえ維持管理費の削減も併せて図る必要がある。
H29年度より企業会計の運用を予定しており、適用後は収支状況をより明確にし適正化を図り、経営基盤の強化を進めることが不可欠である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。